

がん検診の正しい受け方 ～がん検診の利益・不利益～

がん検診は、がんを無症状のうちに 早期発見・早期治療し、がんで亡くなることを防ぎます。
その一方で、がん検診には様々な不利益もあります。

正しいがん検診の選び方や検診を受ける前に知っていただきたい情報をまとめました。

がん検診に関する理解を深め、正しい知識を持って適切に受診しましょう。

なお、現在治療中や経過観察中の方は、がん検診を申し込む前に主治医にご相談ください。

利益

不利益



Q1 がん検診の「適切な受け方」ってありますか？

A はい、あります。まず、科学的根拠が確立したがん検診を受診しましょう。
がん検診には利益と不利益があります。→ Q2

がんで亡くなることを防ぐためには、**がん死亡を減らす効果が確実で、かつ、利益が不利益を上回る検診**を受けることが大切です。現在、国はこれらの要件を満たすことが科学的に認められた検診（P3以降の各がん検診 各ページ右上の表の国の推奨）の受診を推奨しています。

がん検診の主な利益は次の通りです。

- ① 標的とするがんによる死亡を防ぐこと
- ② 早期発見により治療が軽度ですむこと
- ③ 本当にがんがない人が検診で「異常なし」となり安心して生活できること



Q2 がん検診には不利益もあるんですか？

A がん検診の不利益は「偽陰性」「偽陽性」「過剰診断」「偶発症」です。がん検診を受診した人はどなたでも、これらの不利益を受ける可能性があります。

偽陰性 実際にはがんがあるのに、精密検査が不要と判定されることです。その結果、がんの治療が遅れます。

がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんので、1回の検診で確実に見つかるとは限りません。従って、がん検診は1回だけではなく、定期的に受け続けることが大事です。

偽陽性 実際にはがんがないのに、がんの疑いあり（精密検査が必要）と判定されることです。それにより、本来受ける必要のない精密検査で身体的な負担がかかります。また、精密検査で問題ないことが判明するまで、不安な日々を過ごすことになります。

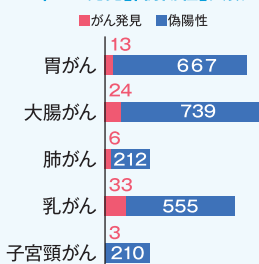
過剰診断 命に別条のないがん（成長スピードが極めて遅いなどの理由により、治療をしなくても命を脅かさないがん）を検診で発見することです。

発見したがんが本当に治療しなくても良いかを正確に識別することは難しいため、（本当は過剰診断であったとしても）治療が行われます。その結果、本来不要な治療により、身体的・心理的・経済的な負担がかかります。

偶発症 検診や精密検査での医療行為による合併症を指します。例として、内視鏡による出血や穿孔、バリウムの誤嚥や腸閉塞、放射線被ばくなどがあります。出血や穿孔により、極めてまれですが、死亡に至ることがあります。



がん検診受診者1万人における「がん発見」「偽陽性」人数



（出典）厚生労働省2019年度「地域保健・健康増進事業報告」

Q3 がん検診は数多く受ければよいというものでもなさそうですね？

A 国の推奨する対象年齢より若い年代ではがんに罹る人が少なく、有効性も確認されていないため、がん検診の利益より不利益が大きくなります。各がん検診の国の推奨する年齢に達したら、がん検診を受診してください。

また、1回のがん検診で全てのがんが確実に見つかるとは限りませんので、がん検診は継続的に受けることが大事です。かと言って、検診を頻繁に受けると不利益が大きくなりますので、国の推奨する頻度で受診してください。